

県教育委員会では、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身につけ、体力・運動能力の向上を図る上で重要な中学生期のスポーツ活動が、適切かつ効果的に実施されるよう標記指針を策定いたしました。今後は、各中学校において、運動部活動の検討を行うとともに改善と更なる充実を図ります。

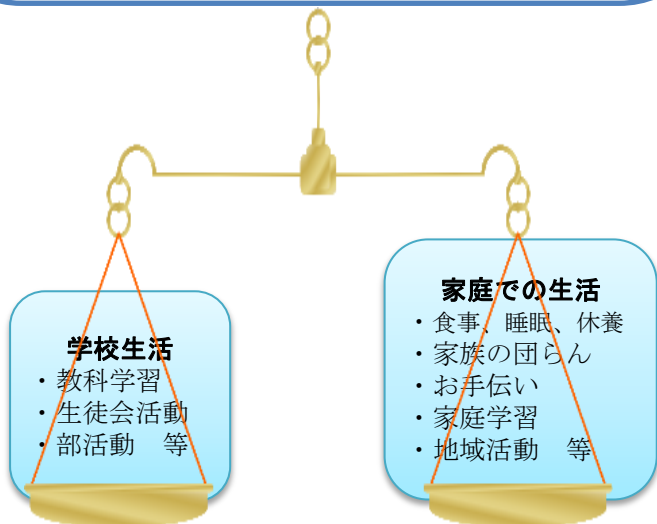
Student First

スチューデント・ファースト（学習者本位）の精神に基づき、生徒の主体性を尊重した活動へ！！



【目指す姿】

- メリハリのある練習計画によるバランスのとれた学校生活
- 生涯にわたってスポーツに親しむ習慣の形成
- 運動好きな生徒の増加



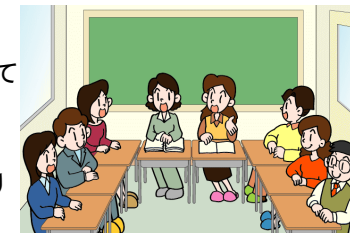
スポーツ活動運営委員会

※学校によって名称は異なります

中学校の運動部活動充実のため、運営計画や課題について協議するとともに、地域のスポーツ活動との連携についても協議し、より良い中学生のスポーツ活動を推進する委員会です。

（協議内容の例）

- ・ 学校が作成した部活動の活動目標、活動方針、運営計画等について
- ・ 生徒の活動状況や、顧問の指導内容について
- ・ 外部指導者の活用や地域のスポーツ活動との連携について
- ・ 保護者や地域のスポーツ指導者が過度の負担とならない体制づくり



「地域」「学校」「家庭」が、ともに力を合わせて、運動部活動や地域のスポーツ活動を支援する組織づくりが大切です。

以下は、指針が示す活動基準です。学校や地域の実情に応じて、指針の趣旨を踏まえながら、生徒にとって適切で効果的な活動にしていくことが望まれます。

適切な活動基準

「平日1日、土日に1日の休養日」

「平日の総活動時間を2時間程度」を示す背景

- ① 中学生としてバランスのとれた生活が大切
- ② 適切な休養日の設定は、トレーニング効果を高め、心身のリフレッシュにもつながる

「運動部活動の延長として行われている社会体育活動は、運動部活動に一本化」と示す背景

- ① 責任の所在が曖昧、責任能力が不十分
- ② 一部の過熱化が、生徒や家庭への負担、学習や家庭生活とのバランスを欠く

「朝の運動部活動は、原則、行わない」と示す背景

- ① スポーツ傷害の危惧
ウォーミングアップやクーリングダウンの時間が、十分にとれない
- ② 健康面への影響
朝食から昼食までの間隔が空き過ぎる
- ③ 効果的な活動
平日の総活動時間が2時間の場合、放課後の活動にまとめ、充実させることが、より効果的

